

第 16 回鈴鹿 F 1 日本グランプリ地域活性化協議会 議事要点録

日 時：平成 25 年 12 月 18 日（金）14：00～15：59

場 所：鈴鹿市役所 本館 12 階 1203 大会議室

出席者：38 名（別紙『組織構成及び出席一覧表』参照）

組織委員 29 名（全 34 名中 出席 15 名，代理 14 名，欠席 5 名）

オブザーバー 1 名

事務局（鈴鹿市）8 名

内 容：以下のとおり（要旨）

1 あいさつ

鈴鹿 F 1 日本グランプリ地域活性化協議会 会長

鈴鹿市長 末松 則子 あいさつ

【要旨】

- ・年末を控え、公私ともに忙しい中、第 16 回鈴鹿 F 1 日本グランプリ地域活性化協議会に出席をいただき御礼申し上げます。
- ・今年は、日本人ドライバーの不在などもあり、少し寂しい日本グランプリとなったが、大きな事故、トラブル等もなく無事に大会を終えることができ、委員の皆様へ感謝を申し上げます。
- ・F 1 日本グランプリは、1 日に 10 万人前後の観戦客が訪れる他に類をみない国際的なイベントであり、その注目度や発信力は非常に高いものがある。
- ・F 1 日本グランプリは、鈴鹿市だけの観光資源ではなく、三重県、そして国の貴重な観光資源であるので、今年も当協議会として交通アクセスの整備や様々なおもてなし事業に取り組んできた。
- ・本日の会議では、環境整備部会並びにおもてなし部会の取り組み結果について、各部会から報告をいただき、委員の皆様のご意見を伺いながら、来年度の事業計画づくりに繋げていきたい。
- ・鈴鹿での F 1 日本グランプリが 2018 年まで継続開催されることが決まり、2015 年からは本田技研工業株式会社の復帰と当協議会を取り巻く状況は上向いて来ている。
- ・これまでの取組を更にレベルアップさせ、一人でも多くの方にこの鈴鹿の地を訪れていただき、そして満足いただけるよう取り組んでいきたいと考えて

いるので、来年以降のF 1 日本グランプリに向け、本日の会議が有意義な意見交換の場となるよう、委員の皆様にご協力をお願い申し上げ、私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。

2 議事

(1) 新規加盟団体の承認について【資料1】

事務局 鈴鹿市 菅沼商業観光課長 説明

- ・資料1『新規加盟団体の承認について』に基づき説明
- ・『鈴鹿サーキット協力会』の新規加盟を提案

◎拍手多数により承認

(2) 規約改正について【資料2】

事務局 鈴鹿市 菅沼商業観光課長 説明

- ・資料2『規約新旧対照表』に基づき説明
- ・新規加盟団体の名称追記、三重交通株式会社の体制変更に伴う統合を提案

◎拍手多数により承認

3 報告事項

(1) 2013年F 1 日本グランプリ大会結果報告について

株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット総支配人 荒木取締役 説明

- ・資料『F1 協議会用資料（サーキット全体説明）』を用いて説明
- ・今年も1年間、F 1 を始めとした様々な事業に、ご協力をいただきお礼申し上げます。
- ・今年、市長のあいさつにもあったとおり、日本人ドライバーが不在ということもあり動員的には厳しいものがあったが、天候にも恵まれ、皆様の協力のおかげで無事に終えることができた。
- ・1987年から始まった鈴鹿でのF 1 日本グランプリが、25回目の記念大会ということで、25回記念大会のロゴを作り1年間、新しいファンの掘り起こし、特に子供をターゲットにした様々な事業を企画・展開してきた。
- ・『語り継ぎたい走りがある。』をテーマに、語り継ぎたい25年間のマシン展示や関係者のインタビュー等を実施してきた。
- ・25年間連続で鈴鹿F 1 日本グランプリに来場していただいたファンの方々を対象に記念イベントを行ったところ約100人の方にご参加いただいた。
- ・子供にF 1 を理解していただきたいということで、『F 1 の速さヒミツ教室』や『応援うちわ手作り教室』などの様々な企画を実施した。

- ・今年残念ながらF1世界選手権シリーズには参戦していないが、小林可夢偉選手に鈴鹿サーキットにご来場いただき、様々なお客様と交流していただいた。
- ・今年初めての取組であるが『ファミリーシート』というシートにお越しいただいた方々を中心に、決勝レース終了後の表彰式の際にお子様連れの方にレーシングコース上にお入りいただくという世界でも前例のない企画を開催した。
- ・木曜日には、ジュニアピットウォークを開催し、桑名市の学校も含めた5校302人の方々に参加いただいた。参加者数は、様々な理由により昨年より減っているが、来年はより多くの学校に参加いただけるような企画を提案していきたいと考えている。
- ・本年の動員数は、決勝日の入場者数を見ると昨年の104,000人から86,000人と前年比18,000人減と厳しい状況であった。
- ・ホンダが2015年よりマクラーレン・ホンダとして復帰することから、今年のF1日本グランプリ会場でもブースを出して過去のF1に関するPRをスタートしているので、このような観点も含め来年に向けて拡大を図っていききたい。
- ・来年は、F1の車両規定が大きく変更されエンジンが自然吸気2.40V8から1.60ターボV6に変わることから、各メーカーとも環境と性能の両立を求められ、F1にとって大きな転換の年になる。
- ・非常に人気が高いドライバーであるライコネンがフェラーリに移籍復帰したことで、ファンの間では興味を持たれており、ドライバー軸で見ると、このあたりが来年の人気に影響すると思われる。
- ・再来年のホンダのF1復活に絡めて、ホンダと一緒に前夜祭的に盛り上げていくことにより、観戦者に期待感を持っていただけるような取組を行っていききたい。
- ・日本人ドライバーについては、今のところ確定をしていないが2014年は難しい状況であると受け止めている。
- ・来年は、今年より日程が1週間早まることがFIAから発表されたが、これが日程的には一番大きな変更である。
- ・当社としては、来年に向け様々な企画を練り、より多くの方に鈴鹿の地を訪れていただくよう取組を進めていくので、引き続き皆様方の協力をお願いする。

(2) 2013年鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会の取組結果について

①環境整備部会

事務局 鈴鹿市 菅沼商業観光課長 説明

【要旨】

- ・環境整備部会の取組については、多くの関係者の皆様にご協力をいただいているので、資料4『環境整備部会資料』に基づき各事業者より説明をお願いしたい。

【国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所・中川氏】

- ・資料4『環境整備部会資料』P1～P13に基づき説明
- ・中勢バイパス5工区については、平成25年度開通予定であることから、今年は部分的に砂利の部分はあるが、概ねアスファルト舗装をした状態で通行していただいた結果、例年通り17分から18分と定時性を持った運行ができた。
- ・供用開始となる来年以降のシャトルバス運行については、警察や鈴鹿市と協議し、検討していきたい。
- ・今年は国が主体となって新たにアクプロという取組を行ったが、これは観戦者の方に渋滞状況をリアルタイムで提供することにより、それを見た方に行動変換をしていただき、渋滞緩和を図るものである。
- ・アクプロは、事前にサポーターを募集して、独自に開発したスマートフォン専用アプリをダウンロードしていただき、決勝日の帰路にそのアプリを起動させていただくことにより、その車がどのルートをどれ位の速度で走っているのか自動的に情報収集し、今度はその収集した情報を渋滞情報としてホームページ上で広く公開するという取組である。
- ・情報閲覧者は1,400名ということで、周知がうまくいかず、まだまだ十分に見ていただけているという状況ではなかった。
- ・アクプロについては、ホームページでのアンケート結果によると48%の方に認知され、15%が利用したということになっているが、86,000人の15%となると13,000人程度となり、実際に利用された1,400名とは差異がある状況となっている。
- ・アクプロを知った方の情報源は、1番多いのが鈴鹿サーキットのホームページ、2番目が当協議会のホームページであったことから、来年度以降も周知に協力をいただきたいと考えている。
- ・アクプロは、決勝終了後にサーキット会場や駐車場で見たという方が多く、概ねサーキットを出発する前に見ていただけたという状況であった。
- ・アクセス状況であるが、レース終了後から渋滞がなくなるまで、各時間900アクセス程度を維持していた。
- ・出発時間や経路を変更していただく行動変化の有無を見ると『変更しなかった』が一番多く、これは周知が十分でなかったこともあるが、リピーターの方が多いため、走りなれた経路を選択した方が多かったということではないかと考えている。

- ・出発時間を見てみるとアクプロ利用者の方については、渋滞状況を確認して、渋滞が緩和されてから出発される方が多かったということが読み取れる。
- ・利用 I C 割合を見てみると、アクプロを利用された方は、鈴鹿 I C 利用者が多少なりとも少なくなっており分散が図られたようにも見えるが、名古屋方面に帰るサポーターが多かったのかどうかということがあるので、そのあたりは検討を進めなければならない。
- ・結果として鈴鹿 I C に向かう車はあまり減らなかったが、鈴鹿 I C に向かうルートを変更しているサポーターが多かったことがわかる。
- ・アクプロの画面上では、車のアイコンの色が、赤が一番遅く、黄色、緑となるにつれて速度が速くなっていくように表示されている。
- ・アクプロのメリットとしては、V I C S のような区間情報ではなく、車 1 台 1 台の走行状況を点として捉えていることから、詳細な情報をリアルタイムに提供できた点である。
- ・もう一つのメリットとしては、ホームページを見たときに自分の車の位置を画面に表示させることにより、進む先の状況がわかるようにした点である。
- ・デメリットとしては、サポーターの数が少なく表示が粗い点などである。
- ・アクプロ利用者は、周辺の道路状況を把握することにより、劇的に渋滞が緩和されなくても、ある程度受け入れて許容することができ、それが満足度につながったのではないかと考えている。
- ・アクプロサポーター 300 名を募集したが、結果的に全体で 173 名と募集に苦労した。
- ・来年も鈴鹿市やモビリティランドと連携し、早い段階から周知していきたい。
- ・今年サポーターをしていただいた方々の多くは、来年以降もサポーターを続けたいという意向を示しているので、その方々を維持するための取組も考えていきたい。
- ・アクプロを Google などの正規のアプリとして登録することにより、利用を促すように取り組んでいきたい。
- ・今回は鈴鹿市やモビリティランドのホームページを利用したが、専用ページの立ち上げについても検討していきたい。
- ・今後は、提供日時の拡大やおもてなし部会の商店やおもてなしイベントの連携など情報内容の拡充も検討していく。

【近畿日本鉄道・岡本氏】

- ・資料 4 『環境整備部会資料』 P14 に基づき説明
- ・今年の F 1 日本グランプリ開催時の白子駅の定期外降車人員は表のとおりである。
- ・日本グランプリの来場者数が少なくなったこともあり、3 日間通して、降車人

員1割弱の減となった。

- ・一方、平田町駅の降車数は増えていることから、今年は平田町駅で降りて徒歩でサーキットへ向かう人が多かったのではないかと考えている。
- ・決勝日復路において、18時過ぎに1回だけ改札内への入場制限を実施したが、その際に若干利用者の階段下への滞留が見られた程度で昨年にと比べるとスムーズに乗車いただけた。
- ・三重交通と連携し、観光バスと臨時バスの利用者が混雑しないように努めたため、スムーズな誘導を行うことができた。
- ・鈴鹿警察署に定期的に見回りを行っていただいたことにより、トラブル等の防止に繋がった。
- ・鈴鹿商工会議所にボランティアガイドを配置していただいたことにより、外国人利用者に対してスムーズに対応することができた。
- ・今年からSuicaなどのICカードの利用者が大幅に増えたことから、改札の通過が非常にスムーズになった。
- ・来年は、駅前ロータリーが完成するという事で新たな導線について関係団体と協議していきたい。
- ・冒頭から話が出ている中勢バイパスの開通に伴うシャトルバスの運行ルートについては、スムーズな運行ができるようお願いしたい。

【伊勢鉄道・猪俣氏】

- ・資料4『環境整備部会資料』P15～P16に基づき説明
- ・今回は、伊勢神宮の遷宮の関係でお客様の対応がスムーズに行くかという点を危惧していたが、結果的には大きなトラブルもなく順調な運行ができた。
- ・鉄道の利用状況については、全体としては昨年比2割減、片道3,500名ほど昨年より減っている。
- ・今年の特徴としては、松阪、伊勢、二見方面からの利用の落ち込みが激しかったが、これは遷宮の影響による宿泊施設の関係ではないかと考えている。
- ・取組として今年は特に新しいものはないが、これまでの経験と実績を踏まえた質の高い対応ができたのではないかと考えている。
- ・鈴鹿警察署や三重県警鉄道警察隊などのパトロール、立哨などのおかげでスムーズな輸送ができ感謝している。
- ・今年も三重県の協力をいただき『Japan Rail Pass』利用者の無償化を実施したが、その結果かどうかはわからないが、外国人利用者が増加したと感じている。
- ・鈴鹿サーキット稲生駅階段の装飾であるが、多くのお客様に喜んでいただけたので、来年度以降もぜひ協力をお願いしたい。

【三重交通・中村氏】

- ・資料4『環境整備部会資料』P17に基づき説明
- ・関係機関の皆様のご協力により、シャトルバス輸送を無事故で完了することができたことをお礼申し上げます。
- ・輸送人員は昨年より約17.6%減の7,945人減であった。
- ・シャトルバスの運行時間については資料のとおりである。
- ・今年も三重河川国道事務所のご協力により、中勢バイパス用地をシャトルバス専用レーンとして利用させていただきスムーズな輸送ができた。
- ・白子駅前については、今年も地元商店街の協力を得て、臨時シャトルバス乗り場を設置させていただいた。
- ・また、西口ロータリーの一部を、乗車券販売所及びお客様滞留場所として使用させていただき混雑緩和を図ることができた。
- ・土日については、本田技研工業株式会社のご協力により、社員駐車場をお借りし、滞留場所の確保を行ったが、結果としては今年度も利用には至らなかった。
- ・鈴鹿サーキット側においても、例年同様、8番駐車場に臨時シャトルバス乗り場を設置させていただき、ピーク時には最大6台のバスを同時に発車させ、中勢バイパス用地のシャトルバス専用レーンの通行がスムーズであったこともあり、乗車待ち時間がほぼ発生しなかった。
- ・中勢バイパスを利用させていただくようになってから、シャトルバスがスムーズに運行できるようになったが、来年は中勢バイパスが供用開始となるため不安である。以前は、片道80分から100分程度かかったこともあるため、来年以降も何らかの形でスムーズな運行ができるよう協議させていただきたい。
- ・白子駅には短時間に37,000人ものお客様が降車されることから、お客様の滞留場所や券売所の場所の確保が必要となるが、当社だけでは難しいことから、来年以降も協議会には引き続き協力をお願いしたい。
- ・名古屋行き直通バスについては、資料のとおりであるが、スムーズに運行することができた。

【中日本高速道路株式会社名古屋支社桑名保全・サービスセンター・松原氏】

- ・資料4『環境整備部会資料』P18～P23に基づき説明
- ・11日（金）のIC出口渋滞発生状況は、鈴鹿ICで6時30分から10時過ぎまで最大約0.2km、みえ川越ICで9時30分頃から10時30分過ぎまで最大約1.1km、四日市東IC及び亀山ICでは渋滞は発生しなかった。
- ・12日（土）のIC出口渋滞発生状況は、みえ川越ICで7時30分頃から10時過ぎまで最大約1.8kmの路肩滞留が発生した以外に、渋滞は発生しなかつ

た。

- ・本線については、暫定的に 3 車線化したこともあり全体的に昨年よりも渋滞の規模は小さめであったが、13 日（日）の夕方の上り線の渋滞は 26.6km と昨年よりも規模が大きくなっている。
- ・対策①→鈴鹿警察署様のご協力をいただき、鈴鹿 I C 出口の信号現示調整を行っていただいた。高速出口側信号の青の時間を変更していただき、出口渋滞の緩和に努めた。
- ・対策②→ハイウェイラジオ、ハイウェイテレフォン、i-Highway、MIB 等により情報提供を行った。
- ・対策③→例年同様、標識車を配置して、迂回推奨・渋滞末尾警戒の案内を実施した。
- ・往路の出口交通量としては、昨年と比べ鈴鹿 I C は交通量が減少、四日市東 I C、みえ川越 I C、亀山 I C の交通量が増加と鈴鹿 I C 以外に流れた傾向が見られた。
- ・復路の入口交通量としては、昨年と比べ鈴鹿 I C で交通量が増え、四日市東 I C は前年並み、みえ川越 I C は、やや増加傾向が見られた。
- ・参考として、どこの I C から乗ったかを示すインターペア交通量を地域別に資料のとおり掲載した。

【三重県については、おもてなし部会と一括で報告】

【株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット・植野氏】

- ・資料 4『環境整備部会資料』P25～P27 に基づき説明
- ・今年の動員については、昨年比 82%ということで全体的に交通量が減り、自動車での来場も 27,900 台と少なく、交通の流れは非常にスムーズであった。
- ・各公共交通機関からの流れもスムーズであり、帰路の混雑もなかった。
- ・特にタクシーは、例年は 21 時頃までタクシーを待つ列が途切れなかったが、今年は昨年より早い 19 時 16 分に通常のタクシー乗り場である正面のロータリーに切り替えることができた。
- ・お客様アンケートの結果を見ると、アクセスについては概ね満足していただき、スムーズであったとのお褒めの言葉を多数いただいた。
- ・アンケートの中でも、来年以降のシャトルバスの運行ルートについて懸念する声があった。
- ・2014 年は、中勢バイパス 5 工区開通後のシャトルバス運行ルートが課題となってくるので、早期にルートを決定するため、早い段階から関係機関と調整を図っていきたい。

【鈴鹿市中央消防署は公務のため急遽欠席】

【事務局 鈴鹿市 菅沼商業観光課長】

- ・資料4『環境整備部会資料』P31～P44に基づき説明
- ・交通円滑化事業については、11日（金）から13日（日）の間、鈴鹿サーキット内に情報収集本部を設置し、各関係団体から提供いただいた交通情報を精査し、観戦者の皆様に提供をした。
- ・今年度からの新しい取組としては、ホンダイインターナビ交通情報の提供と先ほど三重河川国道事務所から説明のあったアクプロの2つである。
- ・ホンダイインターナビは、通常はホンダイインターナビ搭載車向けの交通情報であるが、今回は本田技研工業と連携することにより、期間限定で協議会のホームページから一般の方に情報を公開した。
- ・開催期間中の本協議会のホームページは、ホンダイインターナビとアクプロに加えて、これまでも行ってきたツイッターによる情報を見えていただくことができるようになっており、観戦者の方の情報収集方法の選択肢を増やすことができたと考えている。
- ・本事業については、2006年時の渋滞状況の緩和を目的に実施しているが、来場者数の違いもあり一概に比較することはできないものの、概ね目的は達成しつつあると考えている。
- ・鈴鹿ICの利用割合が例年より増加しているが、これはF1決勝日の15時前に東名阪自動車道上り線の亀山JCT付近で交通事故が発生し、それによる渋滞が17時頃には伊勢自動車道の関IC付近まで延びたことから、亀山ICを回避して鈴鹿ICに向かった方がいたためではないかと考えている。
- ・アンケートの結果を見るとホンダイインターナビの利用率が低くなっているが、これはインターナビ搭載車やHPからインターナビ利用会員に登録されている方は、もともとスマートフォン等から情報を得ることができるため、利用率が低くなることは想定していた。
- ・ツイッター及びアクプロの利用率は15%前後であるが、利用者の方には高い評価を得ていると考えている。
- ・アンケートの自由意見については、抜粋したものを資料に掲載してあるが、もう少し詳細を知りたいという場合は事務局まで連絡いただきたい。

②おもてなし部会

事務局 鈴鹿市 長谷川観光振興GL 説明

【要旨】

- ・資料5『おもてなし部会資料』に基づき説明。
- ・今年も、10/10（木）から10/14（月・祝）の5日間を、重点期間と設定し、

この期間を中心に、様々なイベントを実施した。

- ・ 詳細については、各事業を実施いただいた団体より説明をお願いする。

【株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット・田中氏】

(ジュニアピットウォーク)

- ・ 10月10日(木)、鈴鹿サーキット国際レーシングコースピットにおいて、5市1町の小学4~6年生を対象に、ピットウォークを実施した。
- ・ 今年度より各学校のネックであった予算の確保という部分に対して、交通費の一部補助(1人150円)をさせていただいたが、結果的には5校314人と昨年より参加者が減少した。
- ・ 来年以降についても地元三重の世界的イベントであるF1日本グランプリを身近に感じてもらうため、少しでも参加校を増やせるように国際交流など魅力的な部分を向上させていきたい。

(鈴鹿日本グランプリクリーンアップ大作戦)

- ・ 決勝レース翌日の10月14日(月・祝)早朝より、鈴鹿サーキット交差点を中心に東西南北の主要幹線道路の清掃を実施した。
- ・ 個人・団体合わせ167人の方にご参加をいただくことができた。
- ・ ごみの量については、ここ数年観戦者のマナーの向上もあり減っているように感じている。

【鈴鹿商工会議所青年部・伊藤氏】

(鈴鹿BOXKARTグランプリ&鈴カレグランプリ)

- ・ 決勝レース翌日の10月14日(月・祝)に鈴鹿ハンター及び弁天山公園周辺において、鈴鹿BOXKARTグランプリ及び鈴カレグランプリを開催した。
- ・ 鈴鹿市らしくモータースポーツを子供からお年寄りの方まで楽しんでいただけるようBOXKARTグランプリを開催したところ4,000人程の集客があった。
- ・ 鈴カレグランプリについては、鈴鹿から何か良いグルメができないかということで開催させていただき、3回目を迎えた今年は、6,000人の方にお越しただけた。

(鈴鹿商工会議所青年部F1応援イベント)

- ・ F1開催期間中の10月11日(金)から13日(日)に、鈴鹿サーキット遊園地内で行っていただいている企画で、メッセージオトドケ隊とくれないのチェッカーフラッグという2つのイベントを開催させていただいた。

- ・メッセージオトドケ隊は、ドライバー別に観戦者からメッセージを集め、ドライバー出身国の国旗を添えて、土曜日の予選終了後に直接お届けしているイベントである。
- ・くれないのチェッカーフラッグについては、観戦者に優勝ドライバーを予測してもらい、的中した方にF1決勝に使用されたチェッカーフラッグを認定証付で贈呈するというものである。
- ・どちらも毎年観戦者の皆様に大人気の企画で、今年は約4,000人の方にご参加をいただいた。
- ・また、帰りにお土産として買っていただけるように鈴鹿ブランド商品の展示・PRを行った。

【鈴鹿商工会議所・山西氏】

(ウェルカム鈴鹿日本グランプリ感謝セール)

- ・9月29日(日)から10月13日(日)の間、F1得々クーポンという形のチラシを発行させていただいた。
- ・市内の店舗・企業105社に協力をいただき、9月29日(日)にB2判のクーポン型チラシを新聞朝刊に折り込む形で約60,000部発行した。
- ・実績としては17事業所から回答があつて173件の利用があつた。
- ・今後とも、より多くの方にご利用をいただき、F1グランプリを盛り上げていけるよう取組を進めていきたい。

(夜間市内無料巡回バス)

- ・F1観戦客におもてなしの心を伝えるとともに、観戦客が鈴鹿市内に出向けるよう商業施設、飲食街等を経由する無料バスを巡回運行させ、売り上げのアップにつなげることを目的としたものである。
- ・10月11日(金)、12日(土)の16時から21時までの間、サーキットからプレスポ鈴鹿、鈴鹿ハンター、イオンモール鈴鹿を巡回した。
- ・実績としては11日(金)が15便運行して延べ365名、12日(土)が15便で484名、合計2日間で延べ849名の方にご利用いただいた。
- ・昨年と比べて利用者数は1割減であるが、目的は達成できたのではないかと考えている。

(インフォメーション(通訳ボランティア)ブース)

- ・おもてなしの一環として、海外から多く来られる観戦客のための通訳ボランティアを市内各所に配置するものである。
- ・実施日は、10月11日(金)～13日(日)、場所は、鈴鹿サーキット、近鉄白子駅、伊勢鉄道鈴鹿サーキット稲生駅の3箇所である。

- ・ボランティアスタッフは、鈴鹿サーキット延べ 3 名、近鉄白子駅延べ 31 名、伊勢鉄道鈴鹿サーキット稲生駅延べ 20 名の合計延べ 54 名のスタッフにご協力いただいた。
- ・外国人観戦客におもてなしの心をお伝えすることができ、参加したボランティアの方からも F 1 日本グランプリの手伝いや外国人との交流ができて良かったとの声もいただいております、有意義な事業であった。

【鈴鹿市 長谷川観光振興 G L】

(クーポンフラッグの掲出・マッピング)

(F 1 観戦チケット提示でのサービス提供)

- ・これまで、得得クーポンのほか、Suzuka Voice MAGAZINE、F ツイ割のクーポン参加店が、F 1 日本グランプリの期間中にそれぞれサービスを提供してきたが、今年より新たな取組として、これら参加店を『F 1 サポートショップ』として、共通ののぼり旗を掲出するとともにその情報(位置、サービス内容等)を Web 上で提供し、利用者の利便性の向上を図った。
- ・併せてクーポンを持っていなくても、F 1 日本グランプリの観戦券を提示いただければ、サービスを受けていただけるようにした。
- ・今年初めての取組であったが、F 1 サポートショップの件数を増やしたり、観戦客に周知することにより、もっと地域経済の活性化につながられると思うので、来年以降も引き続き取り組んでいく。

【鈴鹿モータースポーツ友の会・福山氏】

(オリジナル絵馬で優勝祈願)

- ・鈴鹿市には鈴鹿サーキットができる数百年前から、『勝速日神社』という神社があるが、勝負に『勝』つ、『速』い、『日』の出の勢いという素晴らしいネーミングの神社が鈴鹿市にあるということで、モータースポーツと掛け合わせ、レースファンにとって鈴鹿市の新しいパワースポット、名物にできないかということで取組を進めている。
- ・今年は、周知としてモータースポーツ専門の F 1 速報、AUTOSPORT web 等に掲載していただいた中で、勝速日神社のほか、鈴鹿市観光協会や鈴鹿サーキット遊園地内の G P スクエアに絵馬を置いていただき、利用数としては昨年と比べ 120% から 130% の伸びを見せたが、まだまだ全体数としては少ない。
- ・モータースポーツを通じた地域の方々との文化交流を目指しているので、できる限り今後も継続していきたい。

【鈴鹿市観光協会・鈴木氏】

(手荷物預かり所)

- ・手荷物預かりについては、10月11日（金）から13日（日）までの3日間実施した。
- ・個数、件数については資料に記載のとおりであるが、いくつ手荷物があっても1グループ500円という形で、観光PRを行いながら手荷物預かりを行ったので、実際の荷物の個数としては、この3倍くらいあるのではないかと思う。
- ・普段は9時30分から18時まで観光案内所で手荷物預かりを行っているが、F1開催期間中は7時から20時の間、手荷物預かりを行った。
- ・時間は20時までとしているが、実際には白子駅前に人通りがなくなる21時30分から22時位までは対応させていただいている。
- ・また、観光協会では10台のレンタサイクルと協会用の自転車1台の計11台を保有しているが、F1開催期間中、木曜日から延べ47台を貸し出した。

【三重県雇用経済部観光・国際局観光誘客課・安保氏】

（三重県の取組）

- ・三重県では、昨年に引き続きF1観戦時の県内への宿泊促進のため、三重県観光連盟と連携し、サポート宿泊施設の取組を実施した。
- ・今年は、桑名市、津市、松阪市にある5件の宿泊施設に参加いただき、10月10日（木）から13日（日）までの4日間で延べ482泊の利用をいただいた。
- ・昨年は延べ705泊であったので、今年の方が減っているが、これは神宮式年遷宮の影響で県内の宿泊需要が逼迫しており、昨年より登録宿泊施設が減少したためである。
- ・参加いただいた宿泊施設においては、ロビーでのF1グッズの展示やレース映像の放映、抽選によるF1グッズのプレゼントなどによりF1の機運を盛り上げていただき、利用者の方に大変喜んでいただいた。
- ・13日（日）の決勝当日に計127泊の宿泊があったということは、F1サポート宿泊施設の取組が、F1をきっかけとした滞在促進に一定の効果があったのではないかと考えている。
- ・地元前夜祭や三重県・5市1町 観光・物産PRブースにおいて、みえ旅パスポートの臨時発給を行い4日間で約700通のパスポートを出させていただいた。

【三重県観光連盟・飯田氏】

- ・三重県観光連盟としては、三重県と一体となって様々な取組をさせていただいているが、その中で情報発信という部分が連盟の主な取組になってくる。
- ・観光連盟の情報発信媒体としては、年4回発行の『観光三重』とホームページ『かんこうみえ』があるが、『観光三重』では秋号でF1グランプリ関連の記事を掲載させていただき、こちらは25万部を県内外の各所で配布した。

- ・ホームページ『かんこうみえ』については、一ヶ月で15万件から25万件のアクセスがあるが、F1関連のイベントやサポート宿泊施設の情報を発信させていただいた。
- ・他にもフェイスブックやツイッター等でもタイミングを見て、F1関連の記事を掲載させていただいている。
- ・直前のF1関連イベントについては、NHKに対し週末のイベント情報として放送いただくようお願いした。
- ・当日は、三重県・5市1町 観光・物産PRブースにおいて、県や各市町の方々と一緒に観光PRをさせていただいた。
- ・年明けには、スマートフォン用のホームページを開設する予定となっているので、来年以降はこちらも活用し、よりアクティブな情報発信をしていきたい。

【事務局 鈴鹿市 長谷川観光振興GL】

- ・本年は、三重県・5市1町 観光・物産PRブースや地元前夜祭を盛り上げていただきお礼申し上げます。
- ・2014年については、同様の形でF1映画祭、地元前夜祭など皆様のご協力をいただきイベントの向上を図っていきたくと考えている。
- ・『2014年に向けての取り組みと課題』の中で後泊促進イベントについて『良いところの継続』の欄に記載してあるが、おもてなし部会を開催した時点では、来年の日程が発表されておらず、今年と同じハッピーマンデーの三連休での開催と考えていたためである。
- ・後泊促進イベントについては、ハッピーマンデーを前提としていたため、来年どうするかについては課題として、おもてなし部会の中で協議していきたい。
- ・ジュニアピットウォークについては、地元の素晴らしいイベントを少しでも多くの小学生に見ていただきたいので、参加増員の方法を検討していく。
- ・ホームページ上でのおもてなしに関するアンケート結果については、アンケート調査の客体が少ないので、客体をもう少し増やして精度を高めなければならず、そのためには情報発信に力を入れなければならない。
- ・おもてなしイベントに参加いただいた方には概ね満足いただいていると思われる。
- ・アンケート調査の概要については資料として配布させていただいたが、もっと詳細を知りたいという場合は、事務局までお問い合わせいただきたい。

○質疑・意見

【鈴鹿モータースポーツ友の会・福山氏】

- ・この鈴鹿F1協議会の取組について、その内容は素晴らしいと思うが、一般の方にあまり知られていないように思うので、サイトの作り方を工夫するなど、今まで以上に一般の方に知っていただけるよう情報発信に力を入れてはどうか。

【事務局 鈴鹿市 菅沼商業観光課長】

- ・情報発信については、まだまだおぼつかないところがあるが、商業観光課の体制も含めて検討していきたい。

【観光庁スポーツ観光推進室・八木氏】

- ・毎回、この協議会に参加させていただくが、関係者の皆様がF1日本グランプリに向けて準備をして素晴らしい結果を残していることに感服している。
- ・観光庁としてもF1日本グランプリは、国内の最大のモータースポーツレースにとどまらず、世界の3大スポーツとも言われるビッグイベントであるので、観光資源として最大限PRさせていただきたいと思っている。
- ・これまで、4年連続国土交通大臣がプレゼンターを務めさせていただき、すっかり大臣の年中行事として定着してきたので、引き続きこうした形で協力させていただきたい。
- ・F1日本グランプリへは、毎年数千人の外国人の方が来ていただけると聞いており、11月までの累計で949万人の外国人の方が日本へ来ていただき史上最高を達成しているが、年内には1,000万人を突破する見込みである。
- ・これも協議会の皆様のご協力あってのこととっており、1,000万人を達成した暁には2,000万人目指して頑張っていくので、協力をお願いします。

4 その他

特になし

15:59 終了